

Q&A

◎新型コロナウイルス感染対策 ◎国民宿舎赤とんぼ荘の今後について



赤木 和雄 議員
KAZUO AKAGI



新型コロナウイルス感染の情報発信のあり方について

問 感染者数の公表が「龍野健康福祉事務所」管内という縛りで公表されている。この報道については、たつの市内の事であるかのような誤った理解の下、無責任な噂により混乱が拡大している現状がある。もう少し分かりやすくするために、県の健康福祉事務所管内での公表ではなく、おおよその感染者数を、市町毎に発表するようなことは考えられないのか。

答 県に対して、感染者の公表のあり方について申し入れたところ、管内の市町別感染者数については集団情報であるため、基本的に個人情報と市町別感染者数は結び付かないものと考ええるため、今後は市町の確認をとった上で公表するとの回答を得ている。

国民宿舎赤とんぼ荘の今後について

問 宿泊施設として存続させるため必要となる設備投資の試算額はおよそいくらになるか。

答 現行の大規模改修での市の積算では、約12億円となる。

宿泊施設として最低限必要箇所のみのリノベーション費用で約8億円と予想されている。

問 福祉施設等の利活用は可能と考えるか。また、許可変更に必要なとなる期間はどれくらいか。

答 介護老人福祉施設等で、都市計画法上の規制を受け、県の許可が必要となる。事前協議から約2年間と予想される。

問 次年度より、赤とんぼ荘が休荘となる。今後、方針が結論に至るまでのスケジュールは。

答 約1年を想定している。地域住民の方々には、十分な理解が得られるように丁寧な説明を繰り返し実施する。



Q&A

コロナ禍のもとでの各分野の対応と対策



堀 譲 議員
YUZURU HORI



問 コロナ感染の第3波が到来。龍野健康福祉事務所管内の感染者も急増している。そのなかには、無症状の人も多い。この無症状の人も積極的に把握し、保護等の対応が必要であると思うが、どう対処しているのか。

答 検査結果が陽性と出た人は、健康福祉事務所が聞き取りを行い、症状が見受けられない人を無症状者として把握している。その方は、医療体制が整備された宿泊療養施設で療養を行っていたらいい。

問 医療機関も深刻な状況になっている。減収補てん等の支援が必要ではないか。

答 医療収益の悪化が報道されているが、市の関与が及ばない。しかし、申請を受けて、医療物資等の支援を行っている。

問 高齢者施設でのクラスターが近隣で発生している。職員を

対象にした「定期的な検査」が必要ではないか。

答 発熱等の症状が出た場合、必ずPCR検査を受けるよう、厚労省から要請があった。市としても、医師会と相談しながら、検査体制の整備に取り組んでいる。しかし、検査数にも限りがあり、定期的に行うことは困難であると考ええる。

問 コロナ禍において、廃業・倒産の事業者も多いと聞く。市はどのような支援を行ってきたか。

答 国の「持続化給付金」、県と市の「休業要請事業者経営継続支援金」、市独自の「事業者緊急支援給付金」等を支給し、1400事業者から申請を受け、事業継続のサポートに取り組んでいる。また、飲食事業者への「応援グルメ券事業」、高齢者への「リフレッシュ事業」、宿泊事業者への「観光キャンペーン事業」を実施している。

その他の質問事項

- 暮らしと命を守る相談体制
- 職員のハラスメント対策